

校長室便り

(文責)

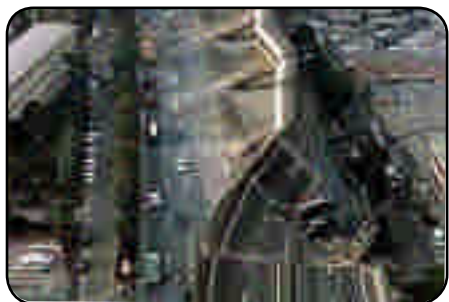
ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

津波で流された市街地のようす

「元気」を届けたい!!

3月11日、東北地方で阪神淡路大震災の約178倍ものエネルギーの地震が起きました。1900年以降、世界で起きた地震の中で4番目というほど大きな地震です。その被害は時間がたつにつれて明らかになり、自然の驚異を感じずにはおれません。日本におられる皆様のご家族や関係の方々のご無事でしょうか。まだ規模の大きな余震も続いているようです。これ以上被害が広がらないよう、また1人でも多くの方の無事を祈らずにはられません。

私が前回この国に赴任していたとき「阪神淡路大震災」が起きました。そして今回、またこのような大規模な地震が発生しました。正に「国難」というべき状態だと思います。阪神淡路大震災の時は、現在のように十分な情報網が発達しておらず、この国にいて日本の状況を知ることはなかなかできませんでした。それでも発生翌日には、こちらの新聞の第1面に、波打ち崩れた



当時このような写真が載りました

高速道路の写真が大きく載せられていました。

そのときも「日本はどうなるのだろう」という不安を感じました。しかし日本は見事に復興を果たしました。今回は過去最大級の地震規模ですが「きっと日本は立ち直る、必ず復興を果たす。」そう願い、信じたい気持ちで一杯です。

阪神淡路大震災の時の、どうしても忘れられない思い出があります。この国で地震がニュースとして流れてすぐ、1人の外国人労働者が「困っている人がいたら助けるのが当然。」と言って、義援金を日本大使館に届けてくれたのです。いくら困っている人を助けるのが当然とはいえ、国を離れ職を求めてやってきている労働者は、そう恵まれているわけではありません。その中から義援金を届けるというのは、簡単にはできることではないと思いました。自分のこと以上に、被災した人たちのことを考えた行動に、頭の下がる思いがしました。その後、もちろん私達もできることをしましたが、その外国人労働者のようにすぐに行動に移すことができたら、もっと良かったのにと後悔が残りました。

自分が被災した立場になれ

ば、こういう出来事がどんなに大変かというのは、いくらでも言えます。ところが自分が当事者でない場合に、同じように相手の身になって考えられるのかというと、これはなかなか難しいことです。しかし同じ日本人として、何かできることはないかを考え、行動を起こそうとすることはやはり大切なことであり必要なのではないかと思います。

最も届けたいのは「元気」ですが、それは簡単なことではありません。だからこそ、私達はそれぞれの気持ちを少しでも行動に移してあげることが大切なのではないかと思います。

人の温かさを感じます

私が以前この国で一緒に勤めていた英会話の先生が、今回の地震を気にかけて、わざわざ電話をしてくれました。「家族は大丈夫だったか。当時のみんなは元気だろうか。」と電話してくれたのです。

既に日本の知り合いに安否の確認をされていたようですが、その温かい気持ちに触れ、本当に嬉しくなりました。

こんな大変な出来事に際して、私自身すぐに行動に移せるようになりたいと改めて思いました。

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

もうすぐ外で遊べなくなります

今年度の「3つのあ」

学期末になるといつも話していますので、今回はこの1年間の「3つのあ」について振り返ってみたいと思います。

まず「あいさつ」についてですが、先日の「5つの気」でも触れたように、元気良く気持ちの良いあいさつを誰もができているかという、まだそこまでには至りません。明るく元気のよい声が、なかなか出せないままにいる子どももいます。

もちろん性格的なものもありますから、言われたからすぐにできるようになるとは限りません。しかし社会生活をしていく上で、きちんとしたあいさつを身につけているかどうかは、とても大きな差となって現れるように感じています。

「あいさつは先手必勝」という言葉があります。損得でものを考えるわけではありませんが、自分から先にあいさつができる人は、それだけでも周囲の人に良い印象を与えることができます。その上に

「笑顔」であいさつできたら、どんなに素晴らしいだろうと思います。

前大使夫人が、日本人学校にお別れのあいさつに来られたとき、この「笑顔」について話されました。「新しく友達を作るためには笑顔が1番大切なのです。」と、ご自身の経験を交えて話されました。既に、この笑顔であいさつをすることができるようになってきている人もずいぶんいます。登校時も下校時も、明るい声と笑顔であいさつをされると、本当にこちらの気持ちまで明るくなります。

あいさつの大切さを、私は年齢を重ねるほど身にしみて分かるようになった気がします。自分の幼いときを思い出しても、毎日のように、事あるごとに言われてきました。それでもなかなかできなかったことを覚えています。自分が思うように身につけられなかったからこそ、その大切さをより感じるのかもしれない。子ども達には自分か

ら進んで、まずは「大きな声」であいさつできるようになってほしいと思います。

自分はもちろん、相手も気持ちよくすることができるのがあいさつです。それだけあいさつの持つ力には大きなものがあります。相手をきちんと見て、できれば笑顔でできるようにになれば、素晴らしい宝物を身につけたことになるのではないのでしょうか。

本をいただきました

先日の参観日の折に『路加(るか)君』(畠山能阿君のお兄さん)から、ドーハ日本人学校にと本を寄贈していただきました。

「7つの封印：全10巻」と「デルトラクエスト：全12巻」です。

どちらも子ども達がとても喜びそうな本です。一人でも多くの子が手に取り読んでくれたらと思います。

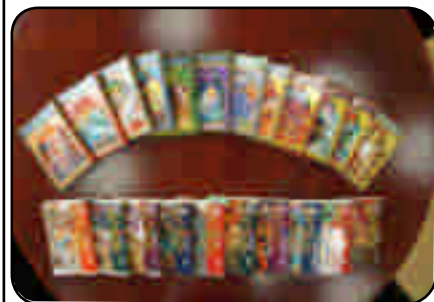
路加君、貴重な本をありがとうございました。大切にさせていただきます。



調理実習後の会食(5・6年生)



芝生の上で元気良く長縄跳び



楽しそうなファンタジーの本

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

上級生は手際よくやっています

今年度「3つのあ」(2)

昨日に続き「3つのあ」の振り返りです。

2つ目の「あせ」は、ドーハ日本人学校の子ども達が最も頑張ってきたことの1つではないかと思えます。「何にでも全力で取り組もう！」という意味で呼びかけてきましたが、いろいろなことに対し前向きに、一生懸命取り組んでいる姿をたくさん見ることができました。

普段の学校生活や授業への取り組みはもちろんですが、特に行事の時には「みんなが1つにまとまって全力を注いでいる姿勢」がよく表れています。こういうふうになるためには、やはり日々の積み重ねが必要なのではないかと思います。

また毎日感心することは、子ども達の掃除態度の良さです。日本の学校だと、清掃指導にかなり時間をとられることがあります。人数が多いとはかどることもありますが、細かく指示をしたり、きちん

とできていない子どもに指導をしているだけで、掃除時間が終わってしまうことがよくあります。指導者の目が届かない場所では、掃除時間が終わってもあまりきれいになっていないこともあります。

それに比べて、ドーハ日本人学校の子ども達の掃除態度は本当に立派です。全校での掃除は週に1回しかありませんが、ほとんど私語をすることもなく、みんなが黙々と雑巾がけに精を出しています。子ども達が教室掃除をしているときに、私は良くホールの掃き掃除をしながら、それぞれの教室で一生懸命掃除をしている子ども達の姿を見えます。毎日繰り返される、日々の清掃活動にきちんと取り組んでいるからこそ、いろいろなことに対し精一杯頑張れる子どもになってきているのではないかと思います。

そしてもう1つ、この「あせ」には別の願いも込めています。それは「人のために汗を流すことができる人になっ

てほしい」ということです。人は他人のために役立つことで、本当の喜びを知ることができるのではないかと思います。また同時に、自分を大切に思う気持ちも育てることができるのではないのでしょうか。

学校生活の中で、こうした経験を少しでも多く積むことは、子ども達の成長にとってとても有意義なことではないかと思います。

切り絵をいただきました

先日『落語と紙切り』公演で来られた「林家今丸師匠」から、素敵な「藤娘」の切り絵をいただきました。本当に素晴らしい技術だと感心させられる作品です。

玄関ホールの左手に飾っていますので、ご来校の折には、ぜひご覧になってください。



いただいた「藤娘」の切り絵



それぞれの教室をみんな一生懸命に掃除しています



校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

調理実習の「あとかたづけ」

今年度「3つのあ」(3)

今日は最後の「あ=あとかたづけ」について振り返ってみます。

今年度良くなったところとして「くつの整とん」が挙げられます。毎日のようにくつ箱を整とんしていますが、私あまり直す必要がなくなるほど、みんなの意識が高まってきたように思います。両方のかかとを、きちんと手前の線にそろえて入れてあると、見た目にも非常にきれいに見えます。

くつはそろっていても、奥に押し込んだ状態だとくつの大きさに差があるためあまりきれいに見えません。自分のくつをそろえて入れるだけであれば、奥まで押し込む方が簡単にできるでしょう。しかし、かかとを合わせて手前にそろえるためには、自分が意識しなければきちんとできないものなのです。

子ども達がかくつをはき替える場面をよく見えますが、必ず両手でそろえている子がいます。その子のくつは、い

つも本当にきれいにそろえてあります。自分がそろえて入れたくつをもう1度振り返り、改めて整とんし直す場面も何度も見かけました。こういうところを見ると「あとかたづけ」を意識していることが、本当に良く伝わってきます。

「あとかたづけ」には、自分の行動に責任を持つという意味もあると思っています。子ども達には「これで良かったかな？」と、常に素直に自分を振り返ることができるようになってほしいと思っています。そういう意味でも、自分のくつ箱をこうして振り返りきちんと直すことができる子どもが出てきたのは、とても素晴らしいと思いますし、周囲へも良い影響を与えるのではないかと思います。

もう1つ働きかけてきたのは「席を離れるときには、きちんとイスを入れておく」ことでした。これも当然のことではありますが、意外とできていないこともあります。イスを出しっぱなしにしてい

ると、どうしても締まりがなくなってしまう。

どちらもしつけに関わることでですから、できるだけ早い段階で身につけてほしいと思います。「くつ」も「いす」も、低学年になるほど良く意識しています。このまましっかりと習慣化してくれたらと思います。

今後働きかけたいと思っていることは、落ちているゴミを見つけたら、進んで拾えるようになってほしいという点です。ゴミを見つけるのは、後を振り返ることにもつながります。同時に、そのゴミを進んで拾える人は、全体が見えている人だと私は思っています。

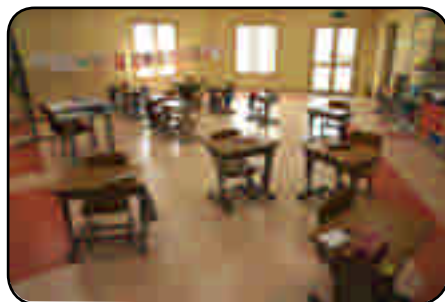
「義援金」の送金先について

急きょお願いした、東北地方太平洋沖地震の義援金ですが、今日までに多くの方の寄付金をお預かりしています。集まった義援金の送金先と方法について大使館に確認したところ、直接「日本赤十字社の義援金口座」に振り込むように指示を受けましたので、来週に送金する予定です。

募集期間は明日までとしていますので、集計ができ次第、ご協力くださった皆様にはご報告させていただきます。



いつ見てもきれいになってきました



みんなが出た後の教室のようす